



屋上防水30年防水保証

 ドイツ製日本仕様

K⁺ Roof Guard 30

Kプラスルーフガード30



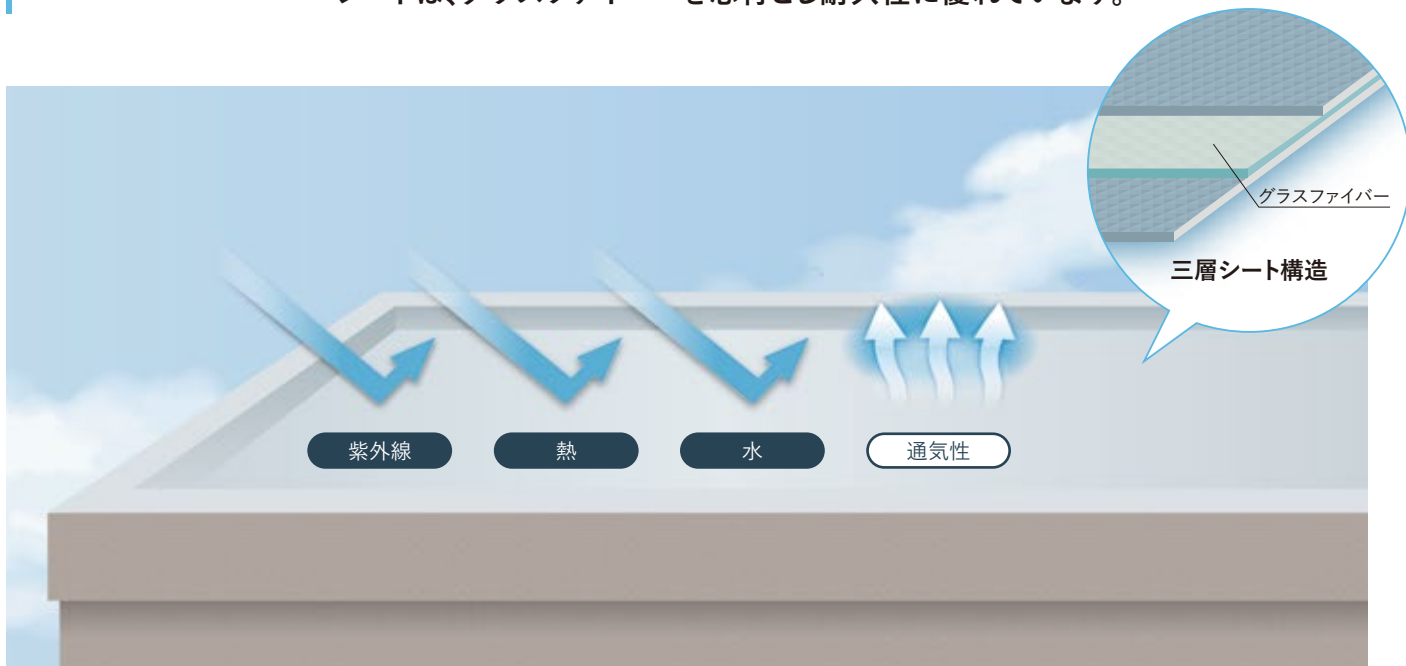
高品質な防水シートで様々な要因から建物を守り、30年防水保証します。

屋上防水 30年 防水保証

K+ Roof

高品質 防水シート

Kプラスルーフガード30は、紫外線・熱・水の影響を受けないドイツ製の屋上防水シートで、通気性のあるポリオレフィン樹脂※1を主成分としています。国際規格である2mmの厚みを持つ防水シートは、グラスファイバーを芯材とし耐久性に優れています。



なぜ、30年保証できる？

耐紫外線性

ポリオレフィン樹脂の耐候性をより高めるため、最先端の紫外線吸収剤(UVA)と光安定剤(HALS)が配合されています。紫外線の光化学反応が全くなく、経年劣化しません。

可塑剤フリー

素材自体に大きな弾性があるため、可塑剤※2が混和されていません。可塑剤が混和されている防水材は、可塑剤の移行により経年で収縮や硬化し、弾性が低下します。

※収縮しないため仕上がりにヨレが生じる場合がありますが、性能には問題ありません。

加水分解ゼロ

屋上の水たまりは、加水分解※3の現象により強度が低下するため、防水材には大敵です。Kプラスルーフガード30は加水分解せず、水たまりを気にする必要はありません。

通気性

通気性があり、脱気装置は不要です。水蒸気を放出し続けるため、建物の躯体を乾燥した健全な状態に保ちます。

防火認定

国土交通省の防火認定を受けています。火災の影響を受けない性能を求められる密集地域で使用できます。

認定番号 DR-2025



※1 ポリオレフィン樹脂

炭素と水素から作られたプラスチック(樹脂)の一種で、耐熱性、耐寒性や耐候性に優れ、ポリ袋やラップ材など日常生活の様々な用途で流通しています。

※2 可塑剤

樹脂をやわらかくする添加剤です。ボールペンのグリップのゴムがベタベタしてくるのも可塑剤の移行による現象です。

※3 加水分解

化学物質が水との反応で分子鎖が切れてしまうことです。長期保管していたスニーカーのソールが空気中の水分によりボロボロになるのも、加水分解による現象です。

Guard 30

Kプラスルーフガード30

納まり

既存防水層を撤去せず、その上に専用固定具で、部分的にシートを固定するワンピース式^{※4}の機械固定カバー工法です。

ディスク

鍛造処理^{※5}したバネ性のあるディスクは、アールがあった形状は接地面が少なく、風圧力がかかっても反り返りません。



82mm × 40mm

スパイク

鍛造処理^{※5}したバネ性のある高強度なスパイクの形状は、スクリー型^{※6}ではなく、緩む力が加わらないように設計しています。風圧力^{※7}がかかっても緩まず、長期間引張強度を保持します。



Φ4.8mm × 51~140mm



スパイクのサイズは既存防水層の厚みにより32mm以上挿入できる長さを選定します。施工前には、耐風圧強度の確認のため、引き抜き試験を実施します。

※4 ワンピース式

ひとつなぎのことで、シート同士を熱溶着で完全一体化させひとつなぎにするので、漏水の心配がありません。

※5 鍛造処理

日本刀の製造工程と同じ強度を高める金属の加工方法です。

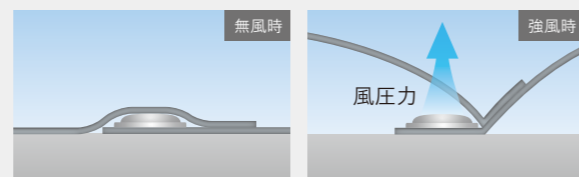
※6 スクリュー型

一般的な塩ビシート機械固定工法の固定はプラグビスです。溝のあるスクリー型であるビスは、風圧力で徐々に回転し緩み、プラスチック樹脂のプラグは経年劣化します。



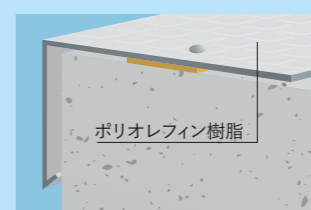
※7 風圧力

風が吹きぬけると、風圧力が発生し、防水層を持ち上げます。風圧力は場所によって異なり、隅角部ほど大きくなります。この風圧力差により、シート固定部は、鉛直方向と水平方向にも力がかけられます。



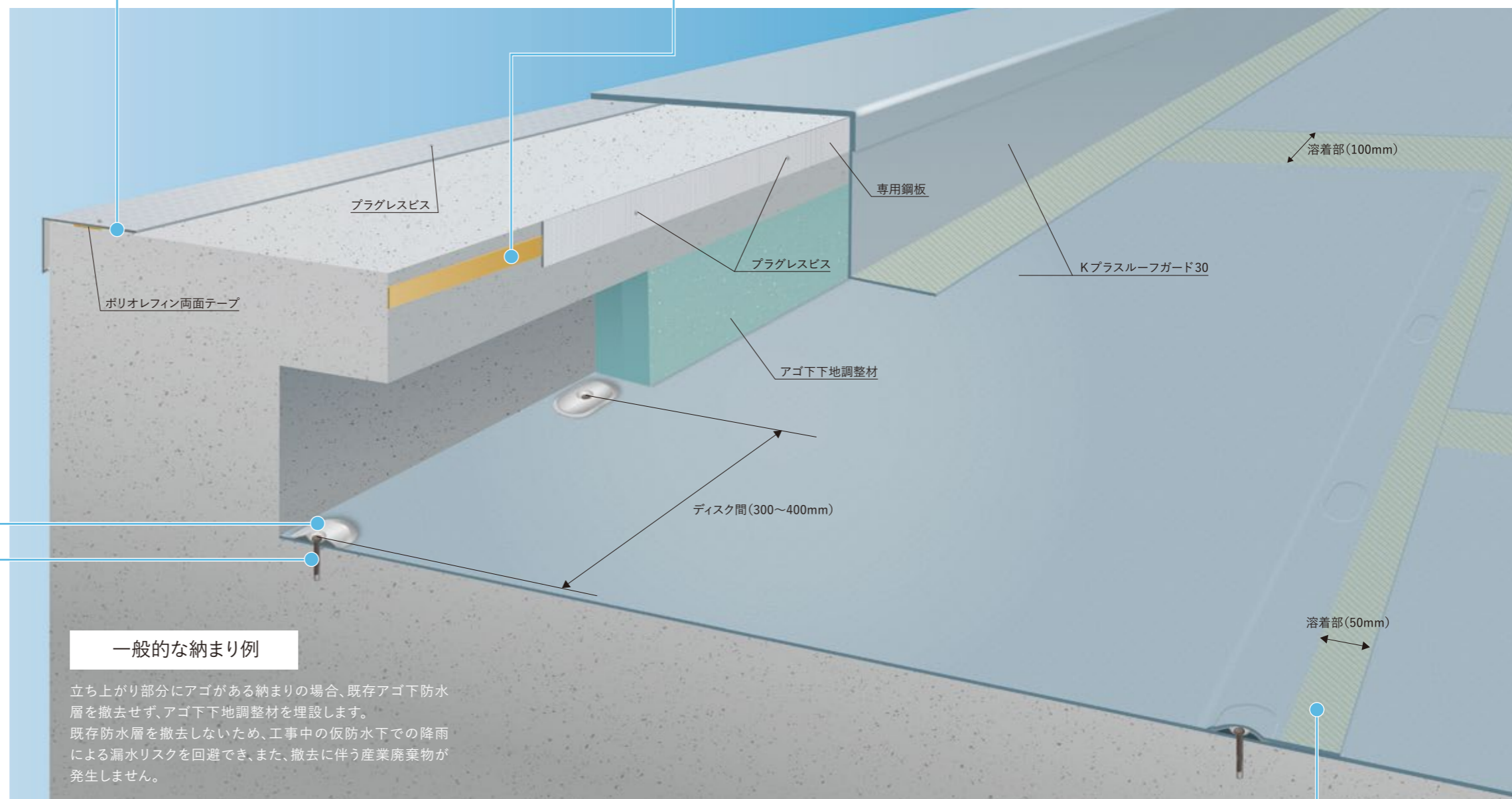
笠木用専用鋼板

亜鉛めっき鋼板の表面にポリオレフィン樹脂1mm厚を特殊コーティングしています。専用鋼板とシートは熱溶着で固定します。



ポリオレフィン両面テープ

専用鋼板と躯体の隙間を強固に埋め、経年劣化が少なく、剥離しません。ドリルで穿孔しても、穴径は広がりません。

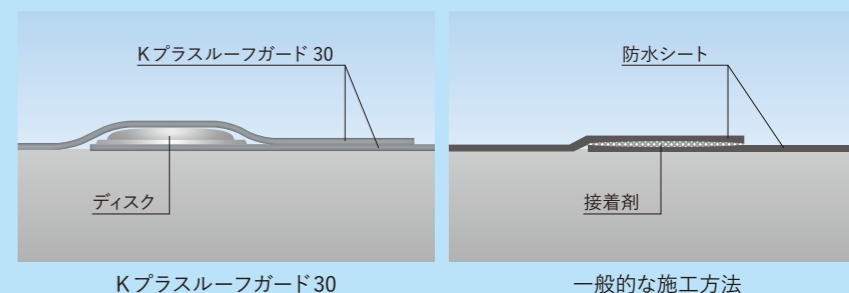


一般的な納まり例

立ち上がり部分にアゴがある納まりの場合、既存アゴ下防水層を撤去せず、アゴ下地調整材を埋設します。既存防水層を撤去しないため、工事時の仮防水下の降雨による漏水リスクを回避でき、また、撤去に伴う産業廃棄物が発生しません。

溶着部

熱溶着で均一に溶着させ、ジョイント部のシートを完全に一体化させます。一般的な施工方法である接着剤を使用しないため、接着剤の経年劣化によるジョイント部の剥離がなく漏水の心配がありません。



Guard 30

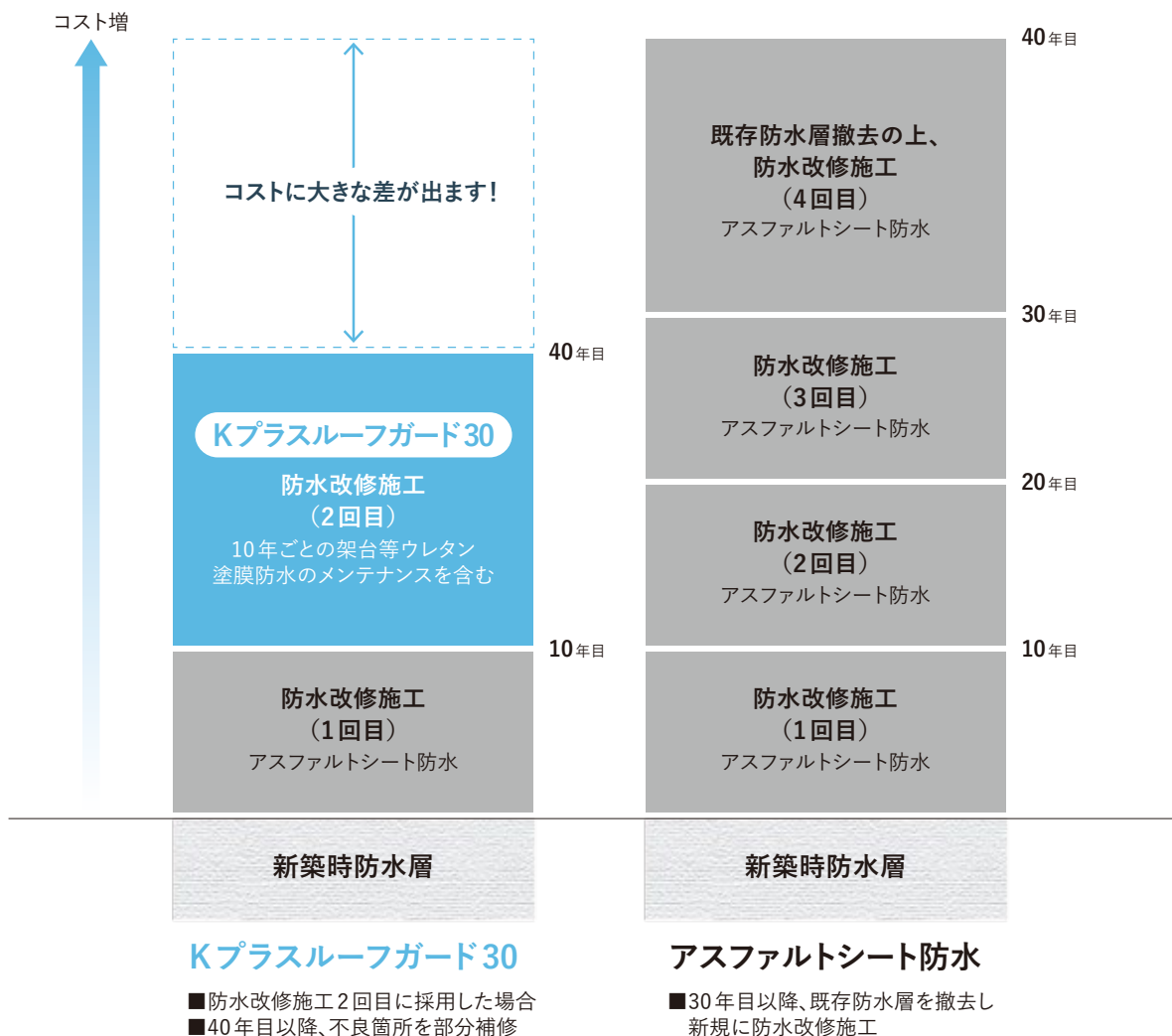
Kプラスルーフガード30

経済性

人生100年時代を迎え、マンション管理についても長期的な視点で考えることが大切になってきました。マンションは長寿命の鉄筋コンクリートの構造物ですが、適切なメンテナンスをせず放置すればその寿命も短くなります。

築20年前後から玄関扉や給排水設備改修などの検討も必要となり、適切なメンテナンスと資金計画をすることがマンション長寿命化となり、資産価値を高めることとなります。Kプラスルーフガード30は、屋上防水計画するうえで大幅なコスト軽減となり、マンション管理の資金計画をサポートします。

屋上防水改修工事40年間のコスト比較イメージ



実績

ドイツでは約45年前から
施工されています。



実績はこちらからご覧ください。



シート規格

製品形状	2.0mm × 1,050mm × 20m
比重	1.0g/cm ³
物性値	引張強度(DIN EN12311-1 Method B) ≧7N/mm ²
	破断伸長度(DIN EN12311-1 Method B) ≧500%
	溶着部せん断強度(DIN EN12317-2) ≧400N/50mm
	水密性(DIN EN 1928 Method B) ≧10kPa
	水蒸気透過性(DIN EN 53122) 0.2g/m ² /day

株式会社 カシワバラ・コーポレーション

東京本社 | 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス18F

岩国本社 | 山口県岩国市山手町1丁目5番16号

関西支社 | 大阪府大阪市北区西天満5丁目14番10号 梅田UNビル12階

[拠 点] 北海道・青森・宮城・福島・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・静岡・愛知・三重・京都・大阪・兵庫・和歌山・鳥根・岡山・広島・山口・香川・愛媛・福岡・長崎・大分・鹿児島・沖縄

<http://www.kashiwabara.co.jp>

お電話でのお問い合わせ ☎ **0120-48-4116** 受付：全日9：00～18：00

WEBでのお問い合わせ

